

本時の主題（道徳的価値）について自分を見つめるために書かせる

1 はじめに

前回記載のとおり、自分が考えてきた道徳の授業について見つめ直すきっかけをいただきました。その後(2019年12月13日)、ある道徳担当の先生と話をしました。その先生は、前回記載の校長先生とは別の中学校教諭です。この学校では、前回の学校とは別の講師先生の指導のもとで道徳を進めています。

2 授業展開

①導入 5分

- ②展開前段 人間理解 (いろいろな人の意見を知り、理解する。)
価値理解 (あるべき姿を理解する。)
(主題にかかわる道徳的価値について理解する。)

③展開後段 自分を見つめる。

④終末 教師の体験談 他の事例紹介

※導入 短く。3分でもよい。

資料が難しいときは、理解を助けるような手だてを立てておく。例えば、登場人物、時代背景、あらすじ、などを紹介する。難しい用語を解説しておく。

※資料を読む:すべての子どもが理解しやすいように教師が読む。

子どもに読ませると、漢字などでつまり、思考が止まってしまう。

※板書 キーワードを書く。簡単に書く。

3 自分を見つめる

- 資料を読み込んでいくと、自ずと“この価値が大切だよ”というところへ集約されていくはず。その価値にかかわって自分を見つめる。
- 主題にかかわり、自分の生活を振り返り、一番課題だなと思うところを考える。
- 自分の生活を振り返り、主題にかかわるエピソード(いつ、どこで、どんなこと)を書き、「その時の気持ちや考え」、「今思うと」、「今の課題は」を書く。

4 おわりに

自分を見つめるところでは、何を書くかを明確に指示してします。言い換えると、何について考えるかを明確にしているということです。「資料を読み込んでいくと、自ずと“この価値が大切だよ”というところへ集約されていくはず。」というフレーズが印象的でした。前回記載した授業の進め方では、終末に「学んだことを書こう」ということだけでした。しかし、資料を読み込んでいくと、自ずと“この価値が大切だよ”というところへ集約されていくのだから、例え「学んだことを書こう」だけであつたとしても、多くの子どもたちは、本時の主題(道徳的価値)について記述するのでしょう。

教師が何をめざすか、何を大切にするかで、授業展開も変わってきます。今回学んだことを、今後の道徳授業に活かしていきたいです。